



マサバ 太平洋系群

主な漁業と漁期

未成魚・成魚 まき網: 周年
棒受網: 1月～6月
たもすくい網: 1月～6月

生態

マサバは日本周辺で漁獲される代表的な魚です。80年代以降減少し続けていましたが、近年回復傾向に転じ、資源水準も高くなってきています。

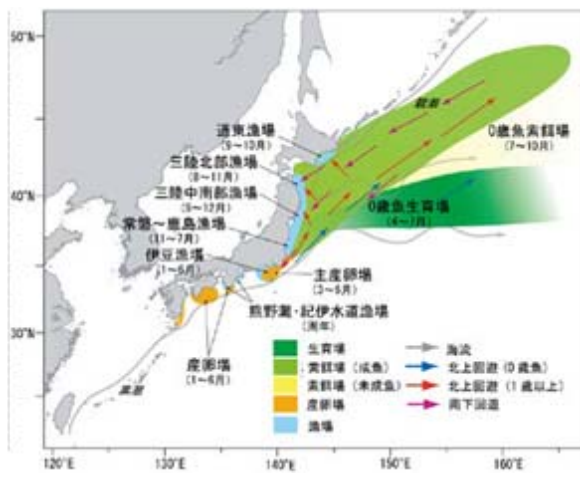
●分布・回遊

日本の太平洋南部沿岸から千島列島沖合に分布しています。

静岡県海域に分布するマサバは太平洋系群に属しています。太平洋系群の0歳魚は親潮域も含めた北西太平洋の広い範囲に分布し、成魚は千島列島東方沖から東北の沿岸地域を索餌場とします。基本的には初夏に北上し、秋季まで索餌回遊を行い、その後冬季から春季にかけて南下回遊して産卵します。一方で、「根付」と呼ばれる、大規模な回遊を行わないマサバもいます。

●産卵期・産卵場

産卵期: 1～6月で、最盛期は年により変動します。
産卵場: 主要な産卵場は伊豆諸島周辺海域です。



マサバ太平洋系群の生活史と漁場形成模式図

(国研)水産研究・教育機構資料

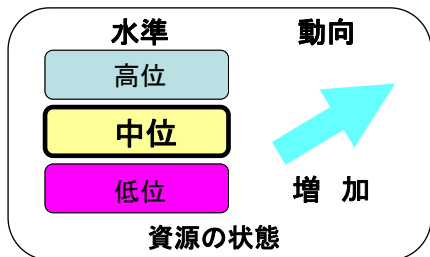
●成長・成熟

寿命は8歳程度です。1年で尾叉長20cm後半、体重300g程度まで成長し、4年で30cm後半、体重700g程度に成長します。しかし、2013年級群以降は成長・成熟に遅れが見られ、尾叉長、体重ともに過去平均値と比較してかなり低い値を示しています。

年により違いはありますが、2歳で20%、3歳で80%、4歳以上で100%が成熟します。

漁業・資源動向

【資源】



- 1 資源量は2015年以降急激に増加しており、2018年漁期の資源量は559.5万トンと推定されています。
- 2 2019年の資源評価では、太平洋系群の資源量は引き続き増加傾向にあります。
- 3 また、2019漁期におけるCPUEは、県内では前年に比べ増加傾向にありますが、資源水準は引き続き中位と推測されています。現在増加傾向にあるため適切に管理していくことで、持続的な資源利用が行えると考えられます。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

ダイジェスト版

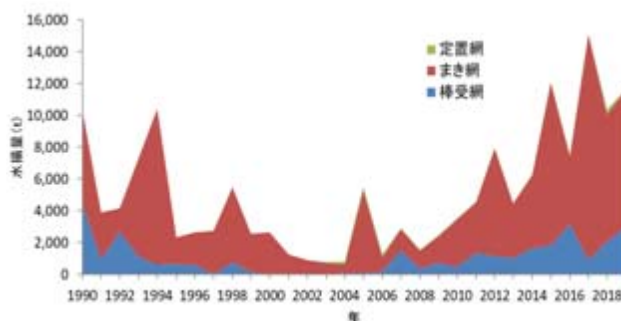
http://abchan.fra.go.jp/digests2019/html/2019_05.html

詳細版

<http://abchan.fra.go.jp/digests2019/details/201905.pdf>

【漁業】

- 1 静岡県では、主にまき網とたもすくい網で漁獲されます。たもすくい網は、マサバの来遊に合わせて、棒受網漁船がたもすくい網に切り替えて操業されます。
- 2 伊豆諸島周辺や、まき網の操業区域である駿河湾周辺には、主に11月から4月ごろに来遊します。
- 3 現在、伊豆諸島周辺海域で操業する静岡県の棒受網たもすくい漁船は、小川に2隻、安良里に1隻、伊東に3隻あります。



マサバ漁業種類別水揚量推移

※4港合計: 小川、沼津、静浦、伊東

担当者の一言: 鮮度劣化の激しい魚ですが、鮮度の良いマサバは各地でブランド魚として注目されています。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817